

平成27年7月13日

平成27年度病害虫発生予察特殊報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 ニンジン斑点細菌病
2. 作物名 ニンジン
3. 病原名 *Xanthomonas hortorum* pv. *carotae*
4. 発生地域 和歌山市
5. 発生確認の経過

平成27年5月下旬に和歌山市の露地栽培ニンジンにおいて、葉縁の枯れ込みや葉柄の枯死などの症状が確認された（写真1～3）。病斑部からは細菌泥の流出が認められ、斉一なコロニー性状を示す細菌が分離された。この分離細菌を健全なニンジンに接種したところ原病徴が再現され、病斑部から同一の細菌が再分離された。農林水産省神戸植物防疫所による遺伝子診断の結果、分離細菌はニンジン斑点細菌病菌であることが確認された。

なお、本病は昭和54年（1979年）に徳島県のトンネル栽培ニンジンにおいて本邦で初めて発生が確認され、昭和58年（1983年）には埼玉県で発生が記録されている。

6. 発生状況

和歌山市における6月上旬の発生ほ場率は18.7%であった（表1）。

7. 病徴および被害

葉に発病し、葉枯れを引き起こす。発病は新葉で少なく、下位葉が多い。はじめ小葉の先端または葉縁に少しへこんだ黒褐色シミ状の小斑点が現れ、その後拡大して、周囲が黒褐色で中央が茶褐色、油浸状の病斑となる。病斑の周囲は黄化する。病徴が進展すると葉身全体が枯死する。根部での発病は認められない。

8. 病原細菌の性質および伝染

温湿度が上昇するとまん延しやすい。土壌伝染および種子伝染すると考えられているが、詳細は不明である。本菌はアブラナ科野菜に対して病原性を示さない。

9. 防除対策

本病に有効な農薬を予防散布する。ニンジン斑点細菌病に使用できる農薬は表2のとおりである。なお、防除に際しては、最新の農薬登録情報（（独）農林水産消費安全技術センター・農薬登録情報提供システム [http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)）を参照し、農薬を適正に使用する。

また、罹病株は見つけ次第抜き取り、ほ場から持ち出して焼却や土中深く埋却するなど適切に処分する。



写真1 初期病斑



写真2 葉縁の枯れ込み



写真3 葉柄の枯死

表1 和歌山市におけるニンジン斑点細菌病の発生状況

調査時期	調査ほ場数	発生ほ場率 (%)
平成27年6月上旬	133	18.7

農作物病害虫防除所、海草振興局、わかやま農業協同組合の合同調査による。

表2 ニンジン斑点細菌病に使用できる農薬（平成27年7月7日現在）

作物名	適用病害虫名	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	カスガマイシンを含む農薬の総使用回数
にんじん	斑点細菌病	カスミンボルドー	カスガマイシン・銅水和剤	1000倍	100～300L/10a	収穫14日前まで	2回以内	2回以内
にんじん	斑点細菌病	カッパーシン水和剤	カスガマイシン・銅水和剤	1000倍	100～300L/10a	収穫14日前まで	2回以内	2回以内
にんじん	斑点細菌病	スターナ水和剤	オキシリニック酸水和剤	1000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	3回以内	-
野菜類	斑点細菌病	コサイドボルドー	銅水和剤	1000倍	-	-	-	-
野菜類	斑点細菌病	コサイド3000	銅水和剤	2000倍	100～300L/10a	-	-	-
野菜類	斑点細菌病	Zボルドー	銅水和剤	500倍	100～300L/10a	-	-	-

和歌山県農作物病害虫防除所  
 担当：大谷、井口  
 電話：0736(64)2300